

平成 29年 第12回 建設トップランナーフォーラム

地域建設業は想定外の災害にどう備えるか

日 時：平成 29年 7月 4日 (火) 14:00～18:00 参加費：無 料

会 場：イイノホール Room A(大会議室) 東京都千代田区内幸町 2-1-1 (TEL: 03-3506-3251)

主 催：建設トップランナー倶楽部

後 援：日本青年会議所建設部会 全国建設業協会 日本プロジェクト産業協議会 建設コンサルタンツ協会
建築技術支援協会 地方建設専門紙の会

開催趣旨

2011年東日本大震災、2011年新潟福島豪雨・紀伊半島豪雨、2012年九州北部豪雨、2014年8月豪雨(広島土砂災害)、2014年御嶽山噴火、2015年鬼怒川堤防決壊、2016年熊本地震・北海道東北豪雨、2016年糸魚川大火など、近年の日本では災害が多発している。地震が少ないといわれた地域で大地震が起き、豪雪対策をしてきた北国で豪雨が増えるなど、地域であり想定されていなかった自然災害が増えている。

建設トップランナー倶楽部は、これまでインフラの町医者をめざして、地域防災の担い手、社会インフラの守り手、複業による雇用の支え手として頑張ってきた。近年では、防災事業、発災時の初動対応、復旧工事における役割が重要になっている。担い手不足の中で、新工法やICTの活用など、新たな挑戦が始まっている。

さらに、中山間地域や離島では、農林水産業の健全な営みが地域の保全と防災につながるとして、農林水産業と建設業の複業を進める建設経営者もいる。

本フォーラムでは想定外の災害への備えに焦点をあてる。これまでの教訓を生かして地域建設業はどう備えるべきか、複業の経験からみた地域防災、災害対応の新しい動きについて、その取組みをもとに議論する。



【申込方法】

下記のホームページの申込フォームからお申ください。

<http://www.kentop.org/>

【インターネットで実況中継】

建設トップランナー倶楽部のホームページ

<http://www.kentop.org/>

【交流会】

時 間：18:30～20:30

会 場：イイノホール Room B

参加費：5,000円(会場にてお支払いください)

【お問い合わせ】

建設トップランナー倶楽部 事務局

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-4 ワイヒルズ2階 米田事務所内
中川寛子 / 大里茂登子

TEL 03-5876-8461 FAX 03-5876-8463 Mail: info@kentop.org

プログラム

【14時 -14時10分】

司会・開会	建設トップランナー倶楽部幹事	丹羽庸介
趣旨説明	建設トップランナー倶楽部代表幹事	米田雅子
来賓挨拶	国土交通大臣 (依頼予定)	
	農林水産大臣 (依頼予定)	

【14時10分 -15時04分】

第1部 災害時にどう備えるべきか

アドバイザー	元国土交通事務次官	谷口博昭
	元農林水産事務次官	皆川芳嗣
北海道・台風豪雨災害への対応		
糸魚川大火災における対応	斎藤井出建設社長	斎藤和之 北海道
	後藤組社長	後藤幸洋 新潟県
アドバイザー総括コメント	各7分	

【15時05分 -15時55分】

第2部 複業による地域の保全

アドバイザー	国土交通省大臣官房建設流通政策審議官 海堀安喜	
	農林水産省大臣官房危機管理・政策評価審議官 塩川白良	
農林業再生による奥飛騨の保全		
和仁建設会長	和仁松男 岐阜県	
農林水産業再生による隠岐島の保全	吉崎工務店社長	吉崎博章 島根県
アドバイザー総括コメント	各5分	

【15時55分 -16時10分】 休憩

【16時10分 -17時00分】

第3部 災害対応における新しい動き

アドバイザー	国土交通省大臣官房技術審議官	五道仁実
	内閣府大臣官房審議官	伊丹潔
東日本大震災後の仙台市地域防災協定		
深松組社長	深松努 宮城県	
無人飛行機で災害現場の撮影	山崎建設社長	山崎健吾 新潟県
アドバイザー総括コメント	各5分	

【17時 -17時45分】

第4部 パネルディスカッション

「地域建設業は想定外の災害にどう備えるか」

パネラー	国土技術研究センター所長・土木学会会長 大石久和	
	林野庁次長	沖修司
北海道空知建設業協会会長		砂子邦弘 北海道
コーディネータ建設トップランナー倶楽部代表幹事	米田雅子	

【17時45分】閉会の言葉

フォーラム実行委員長 小野貴史 新潟県